観点・小問ごとの分析	対策の視点
章を書くには…」から誤ってとらえているように思われる。	
二、修飾・被修飾の関係がわかる 1.連用修飾語である「ゆうゆうと―泳いできます」の正答率（74%）はよいが、2.連体修飾語である「あかるい―海を」の正答率(32%）は低い。 連体修飾語についての誤答は、 あかるい ―― おきに向かって 　　 ― 進んでいきます。 に集中している。	◦　語と語の関係をつかませるとき、連用修飾語は、「どんなに―どうする」の関係でとらえることができるし、連体修飾語は、「どんな―何」の関係でとらえることができる。これらのことを用例をもとに指導していくことが大切であろう。
三、主語・述語の関係がわかる 1.「雲が―流れました」（59%）、2.「おかあさんが―まっています」（64%）で比較的よい。 誤答は、主述のとらえ方に集中し、1.では「白い雲が」としたもの、2.では「かさをもって」としたものが目立った。	◦　主語・述語をとらえさせる場合、述語を押さえてから、「何が」「だれが」と、主語を捜させる方法が効果的であろう。
四、場面の情景や人物の気持ちが読みとれる 正答率は各問とも50%台である。 1.場面の読みとりでは、イ「おかあさんのゆめをみているようす」と、とらえているものが多い。正答率51%。 2.作者の気持ちの読みとりでは、イ「五時間もべんきょうして、あきてしまったから」と、とらえているものが多い。正答率53%。 文中の「すぐかえるよ、きょうは五時間だ。」のとらえ方がよくできないための誤りと思われる。 3.主題の読みとりでは、エ「学校にいると一日が長くかんじられる」と、とらえている	◦　詩を読み味わう指導では、作品を読んで直感的に感じたことを唯一のものとするのでなく、いろいろな読みとり方をする態度と、柔軟な解釈力を育てることが大切であろう。そのためには、 ・　静かに、なんべんも繰り返して読む。 ・　一字、一句を大切にして読む。 ・　読みとれるものから、自由に想像し、心の中に情景を描き出しながら読む。 ・　余情、余韻をくみ取るようにする。などに留意して指導に当たりたい。